

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果

羽島市立竹鼻小学校

文部科学省が毎年4月に、全国の6年生と中学3年生を対象に実施する学力調査「全国学力・学習状況調査」について今年度の調査結果がまとまりましたので、竹鼻小学校の傾向についてお知らせします。

## ○ 学力に関する調査結果から ・ 国語科の状況

言葉の特徴や使い方、話すこと聞くこと、読むことについての技能や表現力等は、県・全国平均並み、またはやや上回る結果だった。

会話文や資料を適切に読み取り、書いてある情報を分類したり関係付けたりすることができている。

「書くこと」に関わる問題や記述式の問題の正答率は県・全国平均を下回り、無回答も多い。特に、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書いたり、使う言葉や文字数などの条件がある中で自分の考えをまとめて書いたりする設問の正答率が低い。(例1)

○ ○ ○ (条件)  
「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。  
○ ○ 「高山さんの取材メモ」の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。  
六十文字以上、百文字以内にまとめて書くこと。

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の子ども仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に応えん<sup>二</sup>の仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、ア<sup>一</sup>きょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思えます。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをな<sup>一</sup>げないようにしています。

二 高山さんは、次の「高山さんの文章」の考えた「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたも高山さんなら、に、「高山さんの取材メモ」をもとにして内容をどのように書きますか。おどの条件に合わせて書きましょう。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について

6年生がくふうしていること

- 遊びたいことを下級生に聞く
- ルールをくふうする

ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる

下級生に聞いたこと

- 1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
- 3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
- 4年生 みんなが楽しそうであれなかった

(例1)

※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。  
※◆の印から書きましょう。どちらうで行を変えないで、続けて書きましょう。

## 指導改善の内容

決められた時間内、文字数、内容など、条件付きで書く活動を低学年から徐々に取り組んでいく。

国語科に関わらず、全ての学習活動で書いたり即興で話したりして、自分の考えをまとめて表現する活動に取り組む。

## ・算数科の状況

数と計算、変化と関係、データの活用に関わる問題については、県・全国平均並みからやや上回る結果であった。

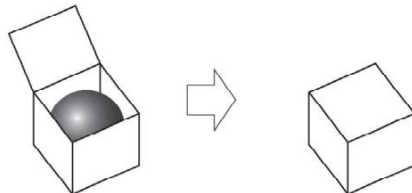
350×2=700であることを基に350×16の積の求め方と答えを書く問題や、問題場面から正しく立式する問題など、計算で成り立つ性質を活用して、計算の仕方を説明したり、問題場面の数量の関係をとらえて式に表したりする問題の正答率が全国・県の平均に比べて高く、基礎的な立式の方法や計算の知識・技能が身に付いていることがわかる。

球の直径とその球がぴったり入る立方体の辺の長さの関係を利用して体積を求める式を立てる問題(例2)や、道のりと歩くのにかかった時間の関係をもとに記述する問題(例3)など、複数の要素を総合的にとらえ、計算したり記述したりする問題は正答率が低く、無回答率も高かった。

(3) 直径22 cmの球の形をしたボールがあります。



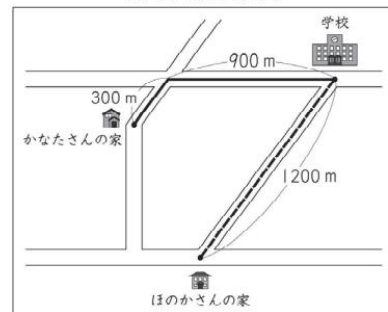
このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何cm<sup>3</sup>かを求める式を書きましょう。  
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

(例2)

家から学校までの道のり



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだだけを、言葉や数を使って書きましょう。

(例3)

## 指導改善の内容

設問の文章から目的や意図を読み取ったり、情報を整理・分析したりする学習を充実していく。

各教科の学習が日常生活につながっていることを認識できるようにするとともに、理解したことを記述したり、図で説明したりする指導を行う。

## ○ 質問紙に関する調査結果から

学習状況や生活の諸側面に関わる児童生徒質問項目の多くは、肯定的な回答をした割合が全国や県の平均を上回っている。

「将来の夢や目標をもっていますか」(70.1%)「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」(79.4%)などの調査結果から、地域や社会貢献に対する意識の高い児童が育ってきていることがわかる。

主体的・対話的で深い学びの視点や個別最適な学びと協働的な学びの視点に関わる質問では、全ての質問において全国・県の平均に比べて肯定的な回答の割合が高い。また、家庭での学習に関する質問「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日どれくらいの時間、勉強しますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」では、1時間以上勉強していると答えた児童の割合が90.6%である。

## 指導改善の内容

全校で大切にしている「大切なもの・夢中になれるもの見つけへの挑戦」の取組の効果が、地域や社会貢献への意識の高さに表れている。引き続き学級・学年のやりきり活動や総合の学習・キャリア教育などの活動を継続していく。

授業内でのICTの活用、自主学習の取り組みから学習に対する意識が高くなっていると考えられる。効果的なICTの活用法を教員間で共有したり、自主学習の内容について児童間での交流を行った、引き続き学年の特性に合わせて全校で取り組んでいく。